



# 04



## ほんとのあいを 子どもたちへ

子どもたちに本当の本の魅力、楽しさ、面白さを伝えるため、様々な工夫を町では行っています。その結果、住民が本を身近に感じ、親しみを持つことに繋がっています。



今、多くの図書館で子供向けイベントとして読み聞かせの会などが開かれています。大切なのはそこで子どもたちがどんな本を読んでもらえるかです。

「子どもや親が、今まで知らなかった面白くて、魅力のある本とお話会。読む本、紹介する本は、子ども時代に会ってほしい基本的な絵本と、自信を持ってすすめられる絵本から選ぶこと。」これが三芳町の図書館の約束事です。自分自身の感動を大切にしつつ、常に「大人の価値観や目線で選んではないか」「子どもはどう読むのか」と考えながら町の図書館職員は絵本選びをしています。

さらに、子どもたちに本当の本の魅力、楽しさ、面白さを伝えるために、職員のみならずボラン



ティアスタッフも、研修会や講習会を重ね「質の高い」絵本の読み聞かせなどで、子どもたちに絵本を紹介しています。

三芳町の図書館は人口1人あたりの本の貸出冊数が埼玉県内で1位であり、蔵書数も県内10位以内である

ことをご存じですか。そして、住民の5人に1人が図書館を利用しています。私たちの暮らす三芳町。町全体が本への関心が高く、本が大好きな人がたくさんいます。

なぜ三芳町の住民の関心が高いのでしょうか。それは、子ども

ページをめくれば新しい世界が始まる。  
一つの語との出会い。  
一つの絵との出会い。  
「一語一絵」。  
本が好きになる運命の一冊との出会い  
「ほんとのあい」を子どもたちに……。

特集 ほんとのあい ～終わり～



“子どもたちに本を読む楽しさを伝えたい”  
そう願う大人のネットワークを広げていきたい。

「これ、面白そうぞ」と絵本をすすめるパパと、嬉しそうなばく。それを見て、「いいわねえ」とほほ笑むご婦人。はたまた、「3年生向きの本、教えてくださいー」とやってくる熱心な学校ボランティアさん。図書館には「子どもたちに読書を」と願う人々が、毎日たくさん来てくれます。私たちは、ただいま「三芳町子どもの読書ネットワーク」の構築を目指し奮闘中。どうぞご協力ください。(朝日新聞埼玉版教育コラム「はぐくむ」に年6回、図書館での出来事などを書かせてもらっています)

図書館副館長  
代田知子

日本子どもの本研究会  
理事、NPO ブックス  
スタート理事も務める。

